


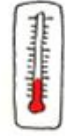




お花の栽培シリーズ「コデマリ」		
2010年4月	卯月(うづき)・卯花月(うのはなづき)・鳥月(とりづき)・花残月(はなのこりづき)・夏初月(なつはつき)・余月(よげつ)	●春まき草花の種子まき時期
心待ちにしていた季節の到来です。庭は、活気づき、華やいだ雰囲気があふれます。病害虫の発生が、盛んになる時期でもあるので、防除の手入れは早めにしましょう。		
庭木の作業	<ul style="list-style-type: none"> ・ウメやサクラにウメムシが発生する前に、害虫駆除を定期的に行いましょう。 ・落葉樹を「とり木」でふやすなら、この時期に行いましょう。 	
草花の作業	<ul style="list-style-type: none"> ・春まきの草花をまき終える ・病害虫の発生がさかんになるので、早めの予防をしましょう。 	

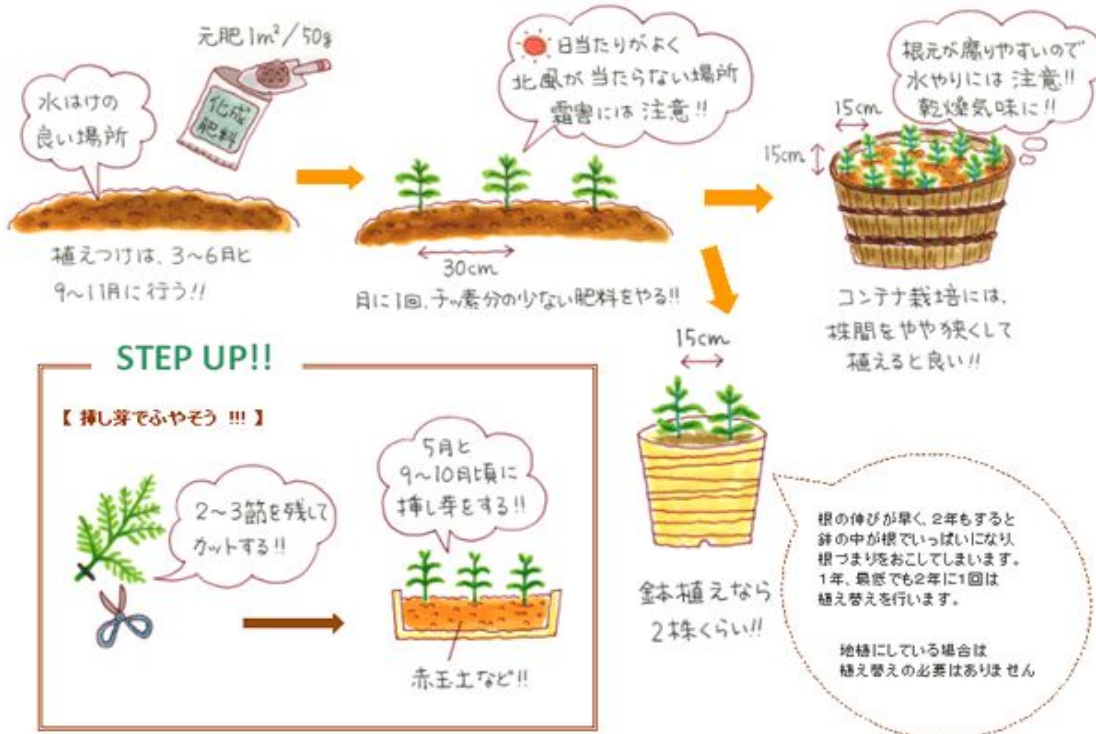
今月の誕生花	チューリップ・デージー・ワスレナグサ	
今月の花	<p>コデマリ 花言葉/努力する、優雅、品位</p>	
	<p>小さな花が丸く集まっているように見えて、その様子がテマリのようだということから、こう呼ばれます。垂れ下がったような形の枝の上部一面を、純白の小さな花が埋めつくす美しい花木です。コデマリがヨーロッパに伝わったのは、19世紀の初めだといわれています。</p>	
	<p>とても花つきがよく、この花が咲くとそのあたりがパッと明るくなる雰囲気が愛されていたよう。すぐに各地で栽培されるようになったようです。</p>	
	<p>コデマリよりも大きい花にオオデマリという花があります。このふたつの花は、テマリバナという別名をもっています。しかしオオデマリはスイカズラ科。直接の関連はなく、似ているのはどちらも純白の穂のような花をつけることぐらいです。コデマリの花言葉には『努力する』という意味もあります。試験やテストなどを控えた友人に、励ましのメッセージと共に贈るとよいでしょう。</p>	
	<p>原産地は中国(北半球の温帯、亜寒帯)。バラ科シモツケ属の落葉性低木。丈は1~2m。開花時期は4~5月。最盛期は4月。葉の形状は、2~4cm幅、1~2cm、披針形で下面は銀白色。花持ちは2~3日程度で、花色は白。英名リーブスピレア(Reeves spiraea)。別名鈴懸(すずかけ)テマリバナ、小手穂(漢字表記)。</p>	
<p>庭では、5月上旬から 咲き始めます。3月中旬になると、花屋の店頭に並び始めますが、これは温室栽培したもの。秋の紅葉した枝なども、生け花の材料として用いられます。</p>		

日当たり  日なた	水やり  乾燥ぎみ	気温  15~25℃	草丈  60~70cm	花色 
--	--	---	--	---



冬にひときわ目立つ黄色の花を咲かせることで、人気が高まっています。深い切れ込みのある葉が特徴的で、ヨモギのような灰緑色をしています。素朴なウッドコンテナとの相性がよく、コンテナガーデンによく用いられます。南アフリカ原産ですが寒さには強く、関東以南の地域では、日当たりがよく北風にあたらない場所であれば、屋外でも咲き続けます。ただし、霜にあたらないよう注意が必要。寒冷地では、鉢植えにして室内のよく日のあたる窓辺などで育てるとよいでしょう。肥料は月に1回、チッ素分が少ない肥料を置き肥します。水やりは、表土が乾いたら与え、冬はやや控えめにして乾燥気味にします。加湿にすると株元が腐ってしまいます。乾燥には強いので、冬期以外も乾燥気味に管理すると、失敗がありません。

● 植えつけのやり方



●年間スケジュール

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
状況	花前					花期		花期				
置き場所	屋内の日当たりのよい場所		屋外の日当たりのよい場所						屋内の日当たりのよい場所			
水やり	4~5日1回	表土が乾いたら与える (2~3日1回)		表土が乾いたら与える (1~2日1回)			表土が乾いたら与える (2~3日1回)		4~5日1回			
肥料	元肥					元肥						
病虫害	アブラムシが発生したら、薬剤などで駆除する											
作業	植えつけ		挿し芽		植えつけ		挿し芽					